

芸豪烈伝その20

廣澤駒藏

ひろざわ こまぞう

「若手はオリジナリテイを持ってほしい」

写真・森 幸一ほか 文・おさだ助三郎



笑いはガン細胞の増殖を止め健康に良いと医学的に最近、立証された。つまり駒藏の舞台は長寿と健康の源だと断言できる。

さて、ここで問題。駒藏を聞きに行ってお客さんは屋外でもないのに傘を持って行きます。なぜでしょう（答えはページのおしまいに）。

お笑い浪曲の第一人者は、浪曲親友

ひろざわ こまぞう 本名・美崎正則。昭和6（1931）年7月13日、大阪は羽曳野市出身。昭和24年、18歳で二代目・廣澤駒藏に弟子入り。同年、廣澤駒太郎となる。昭和25年の初舞台で『柳生二蓋笠』を読んだ。昭和37年から浪曲を離れ45年に復帰。46年に三代・廣澤駒藏を襲名。平成8年度の大阪府文化功労賞を受賞。得意ネタは『水戸黄門』『木津勘助』『左甚五郎]ほか。

協会（関西の浪曲関係者の法人組織）の副会長の重責も担っている。

「若い演者が時代に即応した演題をひとつでも多く覚えて、いまの浪曲ファンより1歳でも若い人を浪曲の世界にひきずりこんでほしいんですわ。」

新しく面白いことを若い演者はしてほしい、御身大切の現状維持は良くない。誰も殺しにきいへんし。

市川猿之助の真似して宙乗りで浪曲やれとはいわんけど、オリジナリテイを持つことです」

若手に注文を出すのは現状に危機感を抱き、浪曲を人一倍、愛しているからだ。

「娯楽も多岐に渡っていたバブルの全盛期が終わり、世間の視界の片隅に浪曲の二文字が入るようになりました。浪曲は勉強になって役に立って、面白いんです。文芸もの、お笑い、俠客伝、義士伝などジャンルも豊かで、義理や人情、世の中の道理や理屈、親孝行に兄弟愛、忠誠心などが含まれています。」

浪曲というナベをじっくり味わって食べると処世術が覚えられ、心の栄養もついて骨と血が増えますよ」

駒藏師は関西では伝統も由緒もあるケレン読み、いわゆるお笑い浪曲だ。テーブル掛けに赤い文字で「笑」と大書し心意気を示している。

「私のネタは50席ありますが、ほとん



どは師匠ゆずりです。古い演題ですが今の時代に合わせて演じます。
アドリブは、はみ出しとも付け足しともいいケレン読みの特権です。たとえば、今日は風が強いので声がフラフラしていますとか、雨なので声が湿っていますとか、臨機応変に弾力性をもつて対応しようと思っています」
時事ネタも多用する。
「新聞やテレビでご存じの事件をいうと効果的ですね。東京のお客さんはニユースや時事ものに反応が早いですが、大阪と比べて千分の一秒ほど」
先日の木馬亭の舞台でも「じゅうせん（住専）から金を借りて家を作った。もつとも十三屋の仙右衛門やけど」と登場人物に語らせ爆笑を誘っていた。
この取材でも駒藏師は当方に、わかりやすく丁寧に説明し、そして笑わせしてくれる。舞台とおなじようにサービスピ精神が旺盛で頭が下がる。
「修行時代は師匠の家の二階の物干し場で、濡れた手拭いで口をおおって声を出しましたね。ネタも師匠の舞台を袖で聞いて手書きで覚えまして。いまも当時のノートを保存していますよ」

「舞台上上がると、借金や夫婦喧嘩や世界各地の戦争やアメリカの大統領選挙など一切わすれて、ハハハ、とにかく、お客さんに喜んでもらおう、笑ってもらおうと懸命にやっています。芸人根性なんですね」
好きな言葉は。
「雑草のごとく、ですか。気負いなく飾り気なく、それでもしおとく生き延びたいですね」
そしてね、私は内臓が丈夫で入院したことがないんです」
どんな性格ですか。
「生まれがヒツジ年でした、ヒツジのように肝つ玉が小さくて小心者です。ひとを押し退けて前に進むことができないんです。ガメツサがないんです」
駒藏師はボランティアで中国の貧しくて進学できない青少年に経済的援助をしている。
「中国には、ここ10年ほど行っています。金銭的援助なんて私はお恥ずかしい限りです。ただ、その進学した生徒が日本を理解して友好を深めていく、相互理解のささやかな窓口になりたいと願っているんです」
機械いじりも好きのようですが。
「そうなんです。新しい電気製品が発売になると矢も楯もたまらず買っています。電子手帳は10年前から使っていますよ。
いまはパソコンのブームでしょ。新



昭和37年から音楽ショー「スカタンボーイズ」を結成し人気を博した。名前は駒タローとしコンガを叩いた。「ハリセンに癪癪玉を挟んでメンバーの頭をどついたら髪の毛が焦げてチリチリになったことも」(中央が駒藏)

しもんずきの私としてはパソコンよりも進んだものをと、日夜かんがえて研究してるんです」
東京でも機械が好きで「新しいもの好き」は視野が広く芸も緻密で勉強家が多い。玉川勝太郎しかり、東家浦若しかり。
「私の師匠は64歳で亡くなっているんです。私は65歳になりました、だいぶ年を取ったなあと感じてます」
なにをおっしゃりますやら。笑いは人間だけができる高等な技だ。人を笑わせることは社会的な需要になっている。駒藏師が真価を発揮するのは、むしろ、これからの15年なのだ。
答えは、客が笑いすぎて劇場の天井が落ちてくるので、それを防ぐため(しかし傘ぐらいで大丈夫だろうか)。

浪曲… これほどすばらしい芸は他にはないと

思います。

22
52

浪曲家の皆さん…頑張ってください。

多くのファンを楽しませて下さい。

葛飾区・坂本豊吉